

指定シンポジウム

3月27日(日) / March 27, Sun. 13:30 ~ 15:30

SA01 ダイバーシティ推進のために学会に何ができるか (ダイバーシティ推進委員会)

座長：井関 祥子 (東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科)

和氣 弘明 (名古屋大学大学院 医学研究科)

SA01-1 研究と多様性

○元村 有希子 毎日新聞

SA01-2 ダイバーシティ推進のために学会に何ができるか

江角 重行、大隅 典子、大野 伸彦、小野 勝彦、向後 晶子、清水 千草、室生 暁、服部 祐季

概要

多様性を意味する「ダイバーシティ」という言葉とその推進が、一般社会において重要性を増している。研究者の社会が、多様な状況や価値観を尊重しながら発展していくためにはどのような取り組みが必要となるだろうか。2021年4月、日本解剖学会男女共同参画委員会は今後の活動の幅を広げていくことを目指し、ダイバーシティ推進委員会と改称した。本総会では委員会のキックオフシンポジウム「ダイバーシティ推進のために学会に何ができるか」を開催する。毎日新聞デジタル報道センター編集委員の元村有希子氏に「研究と多様性」というテーマでご講演をいただき、他、元村氏を含めたパネルディスカッション、委員会企画イベントも予定している。

3月27日(日) / March 27, Sun. 15:40 ~ 17:40

SA02 解剖学でキャリアをどう築くか? (若手育成委員会)

座長：武井 陽介 (筑波大学 医学医療系)

鍋加 浩明 (愛媛大学)

SA02-1 A MD-Ph.D. med student is trying to get them all. Ideas?

○ Hiroshi Otani

Anatomy and Developmental Biology, Grad School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima Univ.

SA02-2 臨床と基礎の架け橋を目指して

○小川 典子 島根大・医・解剖学・発生

SA02-3 私の研究サバイバル人生

○江角 重行 熊本大学大学院 生命科学研究部 形態構築学講座

SA02-4 がんにおける microRNA の機能研究と解剖学

○小川 名美 岐阜大・医・解剖学

SA02-5 解剖学教育と大脳皮質発生研究

○廣田 ゆき 慶應大・医・解剖学

SA02-6 「解剖学教室の教員」というキャリアプラン

○山崎 美和子 北海道大・院・医・解剖発生

SA02-7 非保健系学部出身者の解剖学教室におけるキャリアパスの一例

○伊藤 哲史 富山大・医・システム機能形態学

SA02-8 解剖学でキャリアをどう築くか? 内科医から転向した解剖学教員からの提言

○長瀬 美樹 杏林大・医・肉眼解剖学

概要

解剖学会の若手研究者の中には、将来のキャリアに不安を感じている人が少なくありません。本来、キャリアに関する話は個人間で語られるものですが、COVID19の蔓延によりそういう機会がほぼゼロとなって2年近く経ち、将来が見通しにくい状況が続いています。本セッションでは、若手研究者に現在抱えている将来に関する心配などを語ってもらい、それに対して、シニア研究者からキャリアを築く上で参考となる経験を紹介してもらいます。若手とシニア双方の視点と体験が同じ場で語られることにより、若手研究者の不安軽減のきっかけとなるようなセッションになることを期待しています。

3月28日(月) / March 28, Mon. 9:00 ~ 11:00

SA03 CST実施におけるボトルネックの解消法を探る Part.4 (解剖体委員会)

座長：東 華岳 (産業医科大・医・第1解剖学)

北田 容章 (関西医科大・医・解剖学)

SA03-1 名古屋大学におけるCSTの取り組みと今後の課題

○荒木 芳生、竹内 和人、棚橋 邦明、横山 欣也、永田 雄一、宇田 憲司、齋藤 竜太
名古屋大・医

SA03-2 産業医科大学における手術手技研修の現状と今後の課題

○安達 泰弘、東 華岳
産業医大・医・第1解剖学

SA03-3 鳥取大学医学部における臨床解剖教育研修センター設立の経緯と課題

○海藤 俊行 鳥取大・医・解剖学

SA03-4 関西医科大学における手術手技研修の立ち上げの環境整備と今後の課題について

○北田 容章 関西医大・医・解剖学

SA03-5 手術手技研修 (CST) 施設開設までの問題点と律速項目 - 広島大学の場合 -

○安達 伸生^{1,3}、池上 浩司^{2,3}

¹広島大・院・整形外科、²広島大・院・解剖発生生物学、³広島大・院・臨床解剖教育研究センター

概要

日本解剖学会と日本外科学会が共同で作成した「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」が平成24年に公表されて以降、本邦におけるご遺体を使用した手術手技研修 (CST) が広まりつつある。本シンポジウムでは、ここ数年の間に環境整備を行いCST開催に至った大学関係者にご登壇いただき、CST実施に向けた環境整備過程や、その中で律速となった点、現時点で未解決の問題等をご紹介いただくことで、CST実施においてボトルネックとなりうる点とその解消法について議論する機会としたい。

3月28日(月) / March 28, Mon. 9:00 ~ 11:00

SA04 日韓合同国際シンポジウム

座長：山下 俊英 (大阪大学大学院 医学系研究科)

SA04-1 Roles of recycling endosome-localized clathrin adaptors AP-1 and GGA2 in regulation of cell surface expression of EGFR for cell growth

○ Takefumi Uemura, Satoshi Waguri
Dept. Anat. Histol., Fukushima Med. Univ.

SA04-2 Neuroprotective Effect of Nortriptyline in Overt Hepatic Encephalopathy Through Attenuation of Mitochondrial Dysfunction

○ Seung Yun Han
Department of Anatomy, College of Medicine, Konyang University, Daejeon, South Korea

SA04-3 Computational geometry analysis of dendritic spines using the super-resolution technique

○ 柏木 有太郎、岡部 繁男
東大・院医・神経細胞生物学

SA04-4 Recovery of dopaminergic amacrine cells after strobe light stimulation in the developing rat retina

○ Jung-A Shin, Department of Anatomy, College of Medicine, Ewha Womans University, Seoul, Korea

SA04-5 Genome organization in the developmental brain

○ Yuki Fujita Perelman School for Medicine, University of Pennsylvania

SA04-6 LAUNCHER: light-activated unimolecular switch using circularly permuted tobacco etch virus protease

○ Mingguang Cui^{1,2}、Sung Hwan Ban^{1,2}、Seunghwan Lee^{1,2}、Dongmin Lee^{1,2}

¹Department of Anatomy, Korea University College of Medicine, Seoul, Republic of Korea

²BK21 Graduate Program, Department of Biomedical Sciences, Korea University College of Medicine, Seoul, Republic of Korea

概要

韓国解剖学会との共催による「日韓合同国際シンポジウム」は、解剖学・形態学の最先端学術交流を図ることを目的とし、両国のさらなる学術的発展と文化的理解の促進に寄与することが期待されます。本シンポジウムでは、科学の将来を担う若手研究者6名(日本側3名および韓国側3名)による最先端科学の知見をご紹介します。

3月28日(月) / March 28, Mon. 13:30 ~ 15:30

SA05 シングルセル解析で読み解く体の構築と機能 (日本生理学会共催)

座長：八代 健太 (京都府立医科大学大学院 医学研究科生体機能形態科学部門・解剖学)
井上 剛 (長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科内臓機能生理学)

SA05-1 Understanding human skeletal development through single-cell analysis of human pluripotent stem cell-derived endochondral bone tissues

○大庭 伸介¹、谷 彰一郎²、岡田 寛之²、鄭 雄一²、北條 宏徳²
¹長崎大・医歯薬・細胞生物、²東京大・医・疾患生命工学セ

SA05-2 Single-cell RNA-sequencing for frozen sections with DRAQ1; an efficient RNA recovery and cDNA amplification method for laser capture microdissection

○Kazuki Kurimoto and Hiroki Ikeda
Department of Embryology, Nara Medical University

SA05-3 Elucidation of anti-inflammatory and kidney protection mechanisms through nervous-immune systems using single cell RNA-seq

○井上 剛 長崎大・院医歯薬・内臓機能生理学

SA05-4 Single-cell オミックスと腎臓オルガノイドを用いた腎臓細胞成熟度多様性の理解

○高里 実 理研 BDR

SA05-5 Mechanism of Ischemia Induced Angiogenesis Defined at Single Cell Analysis.

○Naito Hisamichi
Department of Vascular Molecular Physiology, Kanazawa University School of Medicine

SA05-6 Molecular Mechanism Underlying the Development of Ventriculoarterial Connection of the Heart

○Kenta Yashiro Kyoto Pref. Univ. of Med.

指定シンポ

概要

シングルセルの遺伝子発現プロファイルを次世代シーケンサーにより網羅的かつ定量的に解析する「シングルセル解析」が、近年急速に普及している。細胞間の多様性の解析、新たな概念の細胞の発見、分化経路・特質変化のトレースと数学的予測などを様々な生物種・組織で可能にする強力な解析手段であり、シングルセル・データを解剖学的構造へマッピングする国際プロジェクト Human Cell Atlas など立ち上がっている。本シンポジウムでは、生理学会連携シンポジウムとして生理学会員・解剖学会員を中心とする演者に最新の知見を報告して頂き、シングルセル解析から読み解ける体の機能と構造について議論したい。

3月28日(月) / March 28, Mon. 15:40 ~ 17:40

SA06 革新的手法で迫る液-液相分離の最先端 (日本顕微鏡学会共催)

座長：和栗 聡 (福島県立医大)
小田 賢幸 (山梨大学)

SA06-1 高分子系における液-液相分離構造の3次元形態観察とトポロジー解析

○陣内 浩司 東北大学 多元物質科学研究所

SA06-2 哺乳類細胞における SQSTM1/p62 液滴の形成と分解

○和栗 聡、田村 直輝
福医大・医・解剖組織学

SA06-3 分子クラウディングと LLPS による浸透圧センシング

○一條 秀憲 東京大学・大学院薬学系研究科・細胞情報学教室

SA06-4 神経変性疾患における LLPS の分子生物学的基盤

○永井 義隆^{1, 2} ¹近畿大・医・脳神経内科、²大阪大・医・神経難病治療学

概要

タンパク質や核酸分子がひしめく細胞内では、液液相分離により核小体やストレス顆粒などの集合体が生成する。最近ではこの相分離が様々な細胞内現象に関わることが明らかとなり、生命科学分野のトピックスになっている。一方、この現象は物理学では古くから知られるが、特に材料系分野では新たな現象も報告されている。本シンポジウムでは顕微鏡学会と連携して、その物性および生物・医学的側面を俯瞰するとともに、最先端研究に基づいた新たな相分離の姿を理解する。

3月28日(月) / March 28, Mon. 15:40 ~ 17:40

SA07 コロナ禍での教育経験を今後どのように生かすか (教育委員会)

座長：吉田 成孝 (旭川医科大学 解剖学講座)

SA07-1 オンデマンドと集合セッションを組み合わせた人体解剖学遠隔授業と分散登校の肉眼解剖学実習
○山口 久美子 東京医科歯科大学 統合教育機構

SA07-2 佐賀大学におけるオンライン・ライブ組織学実習
○城戸 瑞穂、吉本 怜子、西山 めぐみ、本田 裕子、内野 加穂、澤田 孟志
佐賀大・医・組織神経解剖学

SA07-3 良医を育てるための新しい解剖学教育法は、コロナ禍でも万全だった
○鈴木 崇根¹、成田 都¹、久保田 憲司¹、松山 善之²、金塚 彩³、山崎 厚郎⁴、太田 昌彦¹、
菅田 陽太¹、森 千里^{1,5}
¹千葉大・院・環境生命医学 Grad.Scho.Med. Chiba. Univ, Dept. Environmental Med.
²新潟手の外科研究所 Niigata Hand Surgery Foundation, Japan
³千葉大・病院・臨床研究開発推進センター Translational Research and Development Center, Chiba Univ. Japan
⁴くらげ整形外科 KURAGE Orthopedic Clinic
⁵千葉大・予防医学センター Center for Preventive Medical Sciences, Chiba Univ.

SA07-4 富山大学医学部医学科におけるポストコロナ組織学教育
○伊藤 哲史 富山大・医・システム機能形態学

SA07-5 マクロ解剖学実習における授業外学修の組織化の機能と統合カリキュラム
○一條 裕之、中村 友也、竹内 勇一、川口 将史
富山大学・医・解剖学神経科学

SA07-6 コロナ禍での授業に関する、学生の率直な反応
○大津山 杏子 富山大・医学科2年生

概要

対面教育が主となるべき解剖学教育であるが、コロナ禍において、教育法を大きく変えざるを得ない事態が生じた。これに対して各教育施設はバーチャル教材の使用をはじめとする独自の工夫を用いて乗り越えたことにより、様々な経験の蓄積ができた。このシンポジウムでは、マクロおよびミクロ教育における各校での工夫を発表することで、これらのノウハウを共有して、コロナ禍の終息が見通せない中で学会出席者の今後の対応に役立ててもらうことを目的とする。